

宇宙開発の政策的な課題に関する懇談会における主な発言 (要約版)

平成 18 年 5 月 26 日
宇宙開発委員会事務局

○ 宇宙開発の理念及び基本的考え方 (第 1 回)

- 宇宙技術は、大規模、高性能、複雑系からなる、修理のできない一発勝負のものづくりである。
- 非常に信頼性の高いものを作れば、我が国の宇宙技術は世界一となり、その技術が他に波及する効果大きい。
- 我が国は知識をベースにした国作りを目指すべきであり、その実現のための宇宙開発であることを明確にすべき。
- 宇宙開発ありきではなく、我が国全体を視野に入れて、宇宙開発に対する投資規模と効果を見極めるべき。また、どう選択と集中を行い、どういった組織形態、官民の役割分担が適切かを明確にすべき。
- 衛星を使った場合と他の代替の方法との比較が必要。
- 安全・安心な生活を確保するために、一定の膨大な費用がかかることは、多くの理解が得られるのではないかと。

○ 今後の宇宙開発利用の進め方について (第 2 回)

- 今後は利用を重視し、需要側への志向を強めた開発を進め

るべき。

- 「選択と集中」を進めた結果、将来の貴重なニーズやシーズを摘んでしまうのではないかと。
- 国と民間は連携しつつも、国は本来国としてやるべきことに集中し、民間は宇宙利用の促進の主体となるべき。

○ 我が国の今後の有人宇宙活動の在り方について (第 3 回)

- 5 年程度であれば、H-IIA ロケットや地球観測衛星による、総合的な安全保障が第一に優先されるのではないかと。
- 有人宇宙活動は、ある種のシンボリックな意味を持っており、技術的な深みや広がりを持つとともに、技術的に高度な国は様々な力を持っているというインパクトを世界に対して与える。
- 当面は地上から宇宙までつながったシステムとしての技術を確立すべきではないかと。
- 有人宇宙活動には我が国の国民性を考えることが重要。
- しばらくは有人宇宙開発を国際協力の中で進める一方で、無人のロボティクス分野を活かした太陽系探査を進めるといった道筋もある。

○ 我が国の今後の宇宙開発基盤の在り方について (第 4 回)

- 衛星から得られたデータを分析して実際に使えるようにする利用技術も、宇宙開発における基盤技術として位置付けるべき。
- 宇宙で失敗するよりは地上で失敗するべき。

○ 我が国の今後の宇宙輸送システムの在り方について（第5回）

- H-IIA ロケットに予算配分を重点化すべき。
- 宇宙輸送システムについては、有人宇宙開発を見通して議論をする必要があり、有人と無人では、はじめからコンセプトを別にして考えていくべき。
- 限られたリソースの中で、有人宇宙開発を進めるためには、日本単独か、国際協調かが重要なポイント。

○ 我が国の今後の宇宙科学研究の在り方について（第6回）

- 優れたサイエンスのモチベーションと、世界最先端のエンジニアリングが融合することが重要。
- 小型化・軽量化を目指した開発を推進すべき。
- 日本の惑星科学の分野においても、相応の資源配分が必要。
- 国民を喜ばせたり、勇気を与えたりする宇宙科学研究は JAXA の起爆剤になり得る。
- 宇宙科学における国際協力においては、中規模・分担独立型の国際協力を目指すべき。

○ 我が国の今後の宇宙開発における人材養成及び教育普及活動の在り方について（第7回）

- 大学や大学院教育においては、手を使って体験することが重要。
- 大規模なシステム全体を系統的に見られる技術者を育てる必要がある。また、大学及び大学院教育においては、耐久性や信頼性に関する教育を強化すべき。
- JAXA に入社する際に必要な基礎知識を備えるために必

要なカリキュラムを早急に作るべき。

- 民間企業からの寄付を JAXA がファンドマネーとして集めて、大学等のプロジェクトに託すなどの仕組みを検討すべき。
- 奨学金に関する仕組みを検討すべき。

○ 我が国の今後の宇宙開発に関する国際協力の在り方について（第8回）

- 限られた予算を外交戦略に使う場合、宇宙開発に投資するか、或いは燃料電池のような将来有望な技術へ投資するかについて、どちらのインパクトが大きいかを議論すべき。
- 情報収集衛星を確実に自分の能力だけで安く打ち上げられることは、国際社会、国際政治の面で非常に大きな力になる。

○ 宇宙開発にかける夢について（第9回）

- 人間の好奇心を満足させることは、さらなる創造の原動力であり、非常に重要。
- 「文化の創造」を科学者は前面に出すべき。